

問

◎土砂災害危険箇所等の見直しについて
◎町外からの移住希望者の受け皿づくりについて
◎公共施設管理運営状況について



中澤 莊也 議員

質問 〃転ばぬ先の杖〃土砂災害危険箇所等の見直しについて。①土砂災害警戒区域、土砂災害危険箇所の見直しについて。②地域防災計画の見直しについて。③ハザードマップの利活用について。

町長 ①当町における土砂災害危険箇所は、185箇所うち土石流によるもの42箇所、急傾斜によるもの143箇所、地すべりによるものはない。本年度から県による県内の土石流危険箇所の追跡調査が行われる。②本年度全面的な改定を行う。3月には取りまとめの上、県知事に報告する。③土砂災害から自分・家族の身を守るための資料としていただいているが、自分の住む地域が危険区域に入っていないから安全だという安全マップではない。

希望への受け皿づくりについて。①空き家バンク事業の実施状況等について。②一元化窓口（定住・就業促進等）の設置について。③行政における空き家等の斡旋業務の実施について。

町長 ①平成24年10月開始、現在まで7件の売登録があり、2件の売買契約が成立している。現在の登録件数は2件である。②空き家対策は、移住・定住への活用の問題だけでなく、景観の悪化や老朽化による倒壊、防犯上の課題を含み、全国でも深刻な問題である。役場組織全体の課題と捉え、機構改革を含め早急な対応を考えていきたいと思っている。③空き家の賃貸・売買契約の締結については、宅地建物取引業の資格を有する民間会社の仲介により、物件所有者、入

居希望者との間で直接行われている。

質問 公共施設の管理運営状況について①ウツドハウスおろくぼの利用客数の推移、利用者の声について②茶茗館の管理運営状況等について③もりのくに白沢温泉管理運営状況等について

町長 ①5年間の宿泊利用者数は、年平均1010名でほとんどが家族連れであり、その多くがリピーターである。管理運営については、平成20年度から指定管理者制度を導入しており、導入以来、大新東ヒューマンサービス(株)浜松営業所が管理運営を行っている。②川根本町シルバー人材センターと管理運営業務に関する単年度更新による委託契約を締結し、管理運営を行っている。



のあり方、状況等を再確認し、必要な事項等を調査して、その結果について対応策を講じていく。飲食の提供についても、町としてもその状況を再度精査をする中で、必要性等については検討していく。

町長 ③時之栖を指定管理事業者として、管理運営を行っている。近年の状況は、もりのくに年間約3万3千人、もりのくに年間約3千人の宿泊利用者があ

答

- 県において土砂災害危険箇所の追加調査を行う
- 役場組織全体の課題と捉え、機構改革を含めて早急な対応を考えていきたい
- 指定管理事業者等に管理運営を委託している



小籾侃一郎 議員

問

- ◎エコパーク情報拠点検討会議の進捗状況は
- ◎山梨・静岡上流連絡道建設構想を提案する
- ◎ユネスコエコパークと川根本町経済は
- ◎治山事業の重要性を下流域にどう知らせるか

質問 エコパーク情報発信の検討会議の進み具合はどうか。

町長 町内外で登録記念イベントや3県10市町の協議会作成のポスター、チラシ等で活動しました。まだまだ周知不足の感があります。「町全域が登録された川根本町」として内外に広報活動していく。寸又山岳図書館・接岨資料館・茶茗館に拠点整備を考えています。将来的には奥泉地区の旧北小を本格的な拠点とし、カヌーや登山、エコツーリズム等に対応したいと思っています。

静岡上流連絡道構想を提案します。

町長 南アルプスエコパークは広大な区域で市町間の連携は不可欠と認識しています。連携にはそれぞれをつなぐ交通、道路網の整備が不可欠であることは指摘の通りであります。今後、井川地区につながる道路整備、さらには山梨県へと続く道路整備に関して県、静岡市をはじめ関係機関に強く要望をしていく所存です。井川地区の皆さんとお互い連携をもつて対応してきた経緯の中で雨畑林道をトンネルで通れるようにという話は私にもありました。やはり期成同盟会等をつくってやらない限り、エコパークはあまり静岡県側のプラスにならないのではなかろうかという感じもしています。何とか具体的に对应して積

極的に進めていきたい。

質問 寸又川左岸林道や吊り橋周遊回廊整備計画等々の本町奥地への集客について。

町長 南アルプスの南側光岳を中心とした地域の核心部分への40kmの左岸林道がエコパークの突破口として一番重要と考えます。国、県にもお願いしています。計画話題も具体的に調査も必要かと思っています。



光岳周辺域

要な話だと思っています。

質問 地域社会発展の取り組みには川根茶と観光とエコパークに関する「南アルプスエコパーク川根本町」ブランドの構築と浸透が課題であると思います。川根本町の経済についての認識を伺います。

町長 今回の登録が本町の自然環境と暮らし、歴史・文化や川根茶栽培に代表される農業、森林環境整備等を含めた川根本町そのものがユネスコに認められたものであることから、エコパークの町としてアピールし、活性化の方向を検討していきたい。お茶の生産がない山梨、長野に地区の特産品としてエコパークに認定された茶として宣伝したかどうかと静岡市からも話があり対応していきたい。

町長 治山のおかげできれいな水があります。行政も下流域に広報が必要と考えます。

答

- エコパーク登録のPR活動もまだまだ周知不足
- 期成同盟会等を作り、国・県に積極的に要望する
- エコパークの町をアピールし、地域活性化を検討
- 水源地の行政として治山センターと共にPRする